

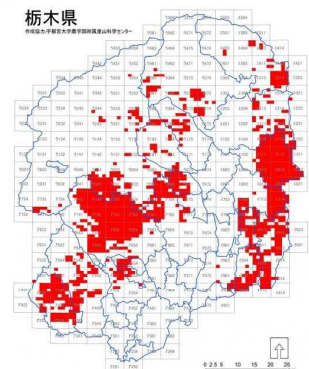
増えるイノシシの被害



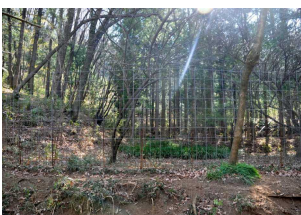
1990年代から、県内でイノシシが分布を急速に拡大させている。今年の3月末から5月にかけて、トウキョウサンショウウオの調査で産卵地を訪れると、どこもかしこも**イノシシの被害**に困り果てているようだった。

イノシシの春先の主な食物は**タケノコ**である。タケノコを食べるため、竹林の土が掘りかえされている。また、夏から秋にはトウモロコシや穀物、ジャガイモ、ぶどう、などの**農作物**やカキやクリもよく食べている。そのため、農作物の被害から守るため、農耕地全体を柵 (**ワイヤーメッシュ**や**電気柵**) で囲っているのだ。

また、イノシシは湿地などで水浴びをする習性があり、その場所は「**ヌタ場**」と呼ばれている。ヌタ場には、**トウキョウサンショウウオ**が産卵することもあり、成体が**食べられたり**、卵のうの上に泥が被さると、**胚は窒息死**してしまう。イノシシの分布拡大が両生類にも影響があるとは、予想以上だった。



イノシシによる農業被害の分布
平成21年(2009年)度アンケート調査による



イノシシ防止柵



ヌタ場跡



ヌタ場に産卵



柵で囲まれている農耕地